

〔古事記開化〕山代之大筒木眞若王娶同母弟伊理泥王之女母泥能阿治佐波毘賣生子迦邇米雷王

加邇米三字以音

〔古事記傳 二十三〕同母弟は師眞淵賀茂の伊呂イロ杼ヅと訓れつるを用ふべし若櫻宮段穴穗宮段など

に伊呂弟とあるに同じければなり女なれば伊呂妹と書る其は伊呂毛なり此事傳十三の六ラカラ、ナモハラカラ、ハ、ハラカラ、ハラカラノイロト、オナジハハラノイロトなど訓るは皆古稱にあらず

〔日本書紀垂仁〕四年九月戊申皇后母兄狹穗彥王謀反欲危社稷因伺皇后之燕居而語之曰汝孰愛兄與夫焉於是皇后不知所問之意趣輒對曰愛兄也

〔三代實錄清和〕貞觀十二年九月十三日壬戌第四皇子誕皇太子同母弟也

〔三代實錄清和〕貞觀十五年四月廿一日乙卯勅曰略其號親王者同母後產並同盡一戸鳩之深

惠欲一恩施司牧之至公猶從義割但冀枝分若木高下共春派出天潢淺深同潤普告遐邇令知朕意

是日定親王八人源氏四人略皇子貞保母女御藤原氏故中納言長良之女略皇女敦子與貞保

同母並爲親王皇子長猷母賀茂氏越中守峯雄之女略皇女載子與長猷同母並爲源氏貫隸左京

一條一坊

〔本朝世紀〕久安二年四月十六日己卯今日有暉子內親王准后勅書事略中

勅親九族而敦睦唐堯之聖德長昭建諸姬而分封周發之賢行既舊障子內親王者朕同產之姊也略中

宜本封之外更加千戶以爲公主湯沐之邑亦任人賜爵殊准三宮布告遐邇俾知朕意主者施行

久安二年四月十六日

〔奥州後三年記上〕みちの國に清衡家衡といふものあり清衡はわたりの權大夫經清が子なり經

清貞任に相ぐしてうたれにし後武則が太郎武貞經清が妻をよびて家衡をばうませたるなり

然れば清衡と家衡とは父かはりて母ひとつの兄弟なり略下